

令和5年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

事業名		つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト(県市町連携)			
事業の概要		<p>【茨城県】</p> <p>(1)「関係人口」の創出・深化・・・ローカル志向を持つ東京圏の人材を、地域や地域住民との多様な関わりを持ち地域づくりに貢献する「関係人口」として創出するとともに、多様な関わり合いの機会の受け皿となる地域住民や企業等を県全体で見える化する。</p> <p>(2) 持続的に「しごと」が生まれる仕組みの構築・・・「関係人口」が本県地域と関わりながら、地域の活性化や地域課題の解決に取り組むことにより、地域で携わる「しごと」が創出される仕組みを構築する。なお、特に人口減少が進んでいる県北地域においては、クリエイティブ人材に対するコミュニティの育成から「しごと」のマッチングまでを一体的に支援する。</p> <p>上記の取組を持続可能なものとしていくため、民間の地域コーディネーター等を介した「ひと」と「ひと」、「ひと」と「しごと」のつながりが創出される仕組みを構築(中間支援プラットフォームの構築)</p> <p>【連携市町】</p> <p>県や中間支援プラットフォームによる東京圏から「関係人口」呼び込む取組を推進するにあたり、その受け皿となる地域の住民や企業等、地域資源等の掘り起こし発掘や見える化に取り組むとともに、「関係人口」に対して地域と多様に関わる機会を提供する。また、市独自の創業支援施策や中間支援プラットフォームの事業と連携し、「関係人口」が本県内で「しごと」を創出し、定着することを支援する。</p>			
評価		実績値を踏まえた事業の今後について			
		今後の方針		今後の方針を選んだ理由	
①取組事業がKPI達成に有効であった	8	<ul style="list-style-type: none"> ・県市町で連携してお願いします。 ・銚田市にゆかりのある若者を限定とするのは何故なのか。日本中の若者が対象でもよいのでは。 ・銚田市出身の若者により、農家のおじいちゃん、おばあちゃんのタクシーアプリ開発は素晴らしい。活用まで実現してほしい。 ・おもしろい事業だと感じました。 ・周知方法として、もっと広く周知して、参加者も増えると良いと思いました。特に大学生は、大学時代で取り組む活動(就活に向けても)を欲しているため、例えば、銚田市の高校生が進学した大学へ、案内送付しても良いのではないかと考えました。 ・開発したアプリのテーマや内容も、実際の課題に即した内容で、期待の持てるものと感じました。 ・つながりをテーマとした事業でアプリの活用は良いと思いました。特に若者を対象とした事業としてはアプリやSNSは有効であると思いました。 ・それぞれのKPIが基準時よりも増加している。 ・市のみの関係人口数が減少している。 ・新たな仕事の創出に関しては、他人任せであるように感じる。具体的な活動がもっと多く必要であった。 ・移住者数は着実に増えている。関係人口数も増えている。 ・課題は新たな仕事の創出。コロナ後の今年が大変な時期になると思う。 	<p>①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の増加に取り組んでください。 ・若い人へのアプローチと若い人からのニーズの収集に取り組んでください。
		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業を令和5年度につなげるべきである。 ・アプリを広い範囲に公募して、新しいアプリ開発をお願いします。 ・銚田市の数値目標及び年度ごとの数値をお願いします。 ・アプリ開発を一般の人でも使用できるようにしてもらいたい。 ・若者だけでなく、広く一般の人にアプリを公募すべき。 ・銚田市の若者が地元で深く関わり続けるきっかけ作り、事業作りを考えてほしい。 ・送迎を助けあえるアプリを実現するにはリスクや課題もあると思いますが、実際に運用できると「銚田で子育てしやすい」というブランディングにもつながる可能性があると思います。 ・(周知方法にも関係しますが)「関係人口数」の増加に向けて、さらに強化できるとよいと思います。 ・着実に数字となって結果が出ている。 ・課題はあるが、事業を継続して様子を見たい。 ・アプリの実用化に期待しています。 ・予算の表示の仕方が令和4年度までと令和5年度が違うのは見づらいので統一してほしい。 	<p>②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな「しごと」の創出のための具体的な方策を皆で考えていく必要があると思う。 ・コロナ後の働き方の変化や高速道路の延長などにより、東京に近い本市へ移住、あるいはUターンしてくる若者がこれから少しずつ増えるのではないかと期待している。この期を逃さずに事業を進めていただきたい。 ・仮に②の関係人口を今回のアプリ開発に参加した、または視聴した人数10数名とするならば、根本的に見直し、関係人口を増加させる必要がある。 ・銚田市に興味を持ち、移住していただくことも重要な取組ではあるが、もっと積極的に魅力的な就業機会を増やさなければ、若者の流出は防げないと思う。 ・昨年度の失敗(参加人数、期間等)を糧にできていないのではないかと。 ・令和4年度に参加してくれた方は、引き続き銚田市に関わっていただけるようにしていき、ワークショップの内容等は見直しの必要があると思います。 ・令和5年度の予算は前年度の倍になっているが、ワークショップ以外の活動も行っていく予定なのか。 ・事業内容に対して、費用がかかりすぎている。費用対効果が悪い。 ・アプリ開発など考えは良いと思うが、本当に市民のためになる実用性のあるもの考えるべき。 ・意見に出たように、市民から「こんなアプリを作ってほしい」などあれば、若者と協力して開発する意味もあると思う。
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	3	<ul style="list-style-type: none"> ・関係人口の創出のために若者視点で住みやすい地域づくりを実現するアプリ開発講座を開催、参加者募集の新聞への掲載、また、地域課題にふれ、解決を考えるワークショップの実施など、若者をターゲットにした方策が実施された。ただ、残念なことに実際に参加した人数が少なかった。 ・銚田市の良さを若者達も十分に感じ、故郷で就職したいと考えている者も少ないと感じている。働く場が十分に確保されれば、地元に残る若者も増えると思うが、新たな「しごと」の創出という面では、これからの課題が多くあるように思う。 ・まずは初めの一歩ということで今後期待したい。 ・銚田市内、市外の学生に銚田に興味を持ってもらう事は必要であるが、参加人数が非常に少ないと思うので、周知の仕方考える必要があると思います。 ・10数名の人数で3回のワークショップ開催でこれだけの費用がかかるのであれば、費用対効果が悪いと思います。 ・銚田市出身の若者に協力してもらうことは良いと思うが、まだまだ参加者が少ないことが問題だと思う。 	<p>③事業内容の見直し(改善)を行うべきである</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に参加してくれた方は、引き続き銚田市に関わっていただけるようにしていき、ワークショップの内容等は見直しの必要があると思います。 ・令和5年度の予算は前年度の倍になっているが、ワークショップ以外の活動も行っていく予定なのか。 ・事業内容に対して、費用がかかりすぎている。費用対効果が悪い。 ・アプリ開発など考えは良いと思うが、本当に市民のためになる実用性のあるもの考えるべき。 ・意見に出たように、市民から「こんなアプリを作ってほしい」などあれば、若者と協力して開発する意味もあると思う。
		<p>④事業実施を中止すべきである</p>	0		
無回答		無回答	0		
有識者評価に対する事業担当者のコメント					
<p>銚田市出身の若者がデジタル技術を活用して地域課題の解決に取り組むことにより、ふるさとである銚田市への愛着や誇りを醸成する機会を創出し、Uターン促進へと繋げるため、募集期間や周知方法を検討し、多くの参加者を募っていきたい。また、開発したアプリは実証実験をしていながら、将来的には市民が使用できるものになるよう努めていきたい。</p>					

令和5年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

事業名		「農業と観光のハーモニー」DAPPE project	
事業の概要		<p>従来の行政の枠組みを超えた本市の特性を活かした「農業・農産物」をツールとした多様な観光推進事業を推進するため、その中心的な役割を担う一般社団法人(仮称)銚田市観光物産協会を設立し、市直売所のリニューアルに併せ、観光客が市内を観光する足掛かりとなる情報発信機能を持たせ、農業体験事業やイベント等、誘客につながる取り組みを進めていく。</p> <p>農業・農産物をツールとした観光コンテンツの創出、それらを活用した市内回遊・滞留の仕組みづくり、地域ブランドを活かした商品開発やその販路拡大を進めていく。</p> <p>また、戦略的な情報発信を展開することで、銚田市への観光入込客数の増加を目指す。実需者である観光客と農業生産者との交流の中で、ただ生産するのではなくマーケット・イン思考な農業をつくり、地域の「稼ぐ力」の向上とさらなる雇用の創出を目指す。さらに、流行に敏感な都会の若者をターゲットとした交流事業を実施することで、地元住民には気づかない農産物の付加価値の付け方を模索するとともに、「稼げる農業」に興味のある都会の若者の移住等に繋げていく。</p> <p>更に、市内の他の事業者・他業界(直売所や飲食店組合等)と連携し、点の取組でなく、面の取組として、交流人口の増加や地域活性化の相乗効果を高めていく。</p> <p>加えて、都市部女性と農業者の交流事業やプロモーションを通じて、都市部女性の取り込みや交流人口拡大を行う。</p>	
事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について	
評価	評価に対する意見・理由	今後の方針	今後の方針を選んだ理由
①取組事業がKPI達成に有効であった	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業と観光の結びつきは重要である。 ・農産物のブランド化に繋がるよう力を入れてください。 ・若者主体ではなく、まず人口増加をさせるべきです。 ・メディアへの効果的な露出のための、カミナリや磯山さやかさんなど銚田出身のタレントさんの起用や市長自らのトップセールス、農産物のブランド化戦略のための、ポップストアの開設や都市部でのほこたメロンフェア等、様々な取り組みによりメロンやイチゴやトマトを筆頭に野菜のまち銚田市の認知度は確実に上がったと思う。更に今年度は、販路拡大のための方策としてメニューフェアや海外の業者へのサンプリング提供、ネット販売などが実施されていて、計画的な取組が有効であったと思う。 ・「DAPPE project」名前も面白い！ ・それぞれ目的を達成するために、よく工夫されていて効果的だと感じました。 ・製作物(チラシや袋、動画など)がとてもオシャレで、若者にとってもカッコいい印象が広がっていると思います。ぜひ、継続してほしいと思います。 ・KPIの数値が不明ではあるものの、1つ1つの手立てについて説明を受け、順調に推移しているものと考えている。特に、メディア露出は充実している。市外の人に向けた手立てではあるが、市民にも市のがんばりを知ってもらう手立てが必要ではないか。(評価には直接関係しないですが) ・大変有効な取組であったと思います。大変な労力でお疲れ様でした。 ・KPI④関係人口数は、もっと多くても良いと思います。表現方法や実績テーブルの基準を見直してはどうか。 ・コロナ禍でもこれだけの数字が残れば成功だと思う。 ・メディアの露出はこの数年とても増えていると思うので、PR活動は成功していると思います。 ・銚田は「もうかる農業」が出来る所なので、シティプロモーション事業により、農業に興味を持ってもらうことができると思う。 ・銚田市の農業・地域について、知名度が上がってきていると実感している。 	<p>①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)</p>	<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロンの付加価値が浸透しつつあり、さらに発展させるべきです。 ・ペイペイでのキャンペーンは絶大な効果があった。 ・農産物のキャンペーンはとても頑張っていると思います。今後ともさらなる発展を願います。 ・銚田市には、雄大な太平洋とつり人が集まる北浦などの豊かな自然、豊富な食べ物、平らな土地など魅力的な地域資源がある。鹿島灘海浜公園には、以前に比べて大分人が集まるようになってきたように感じるが、コロナも落ち着いてきたので、銚田市の観光面での魅力も、さらに発信して行けるようになるのではないかと感じる。 ・さまざまな魅力発信のための工夫がされていると感じた。 ・さんて旬菜館は品揃えの面で、他の直売所に劣っている感が否めない。レストランの営業方法も含め、ご検討頂きたい。 ・銚田市のプロモーションに有効。 ・農業を活かした取り組みは銚田市ならではの価値があると思う。さらに事業を拡大していくべきではないか。 ・市の取り組みを市民に知ってもらうことも大切。茨城新聞に予算を取って、特集を掲載してはどうか。 ・茨城DCが10月から始まる。具体的に何をすることになったのか知りたい。 ・観光地化する為には、農作物だけでは厳しいと思うので、滞在時間が増える様なイベント等を行って欲しい。 ・銚田の夏祭りを活用して、他からの観光需要を掘り起こしてほしい。 ・観光需要拡大には、飲食店、宿泊場所も重要なので、そちらの充実も図ってほしい。 ・引き続きPRIに力を入れていただきたい。
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業により創出される「関係人口」数が40%の達成率です。 ・銚田市のポテンシャルは高い「農業産出額」、「銚田の自然」だと思う。活かされていない。 ・コロナ禍で移動が制限され、外食も厳しい状況であったので、KPIを見直しても良かったのではないかと。KPI速報値も出ていないので。(メディア露出をKPIにするとか) ・現在までのプロモーションが、本当に伝えたい銚田の魅力であったのか分からない。他にもっと魅力的なものがあるのではないかと。(農業や観光ではないのでは) ・行った事業はある程度理解できたが、良かった事や課題が見えなかった。 ・メディア露出により、前から比べれば銚田市産の農産物について認知度はかなり上がっていると思います。 ・移住者についても、実際に銚田市での生活の様子を話してもらうことで、イメージも湧きやすくなった。今後も続けてほしい。 	<p>②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が増えてきているので、銚田市の魅力を伝える方法を考えてもらいたい。 ・都内近郊の友人、知人、仕事関係の方で「銚田を知っている」、「銚田についてテレビで見た」など、声を聞くことが近年増えています。限られた実感値で恐縮ですが、事業継続を選択しました。 ・稼ぐ農業、持続する農業のところで一部の農家が儲かる施策ではなく、全体の底上げになる事業をお願いします。
無回答	0	④事業実施を中止すべきである	0
		無回答	0

有識者評価に対する事業担当者コメント

・令和2年度より、交流・移住サポートサイトを立ち上げ、本市での暮らしにフォーカスした「リアル」を伝えることに主眼を置き、プロモーションの発信に取り組んできた。これまでの制作した市の魅力を発信する動画や移住者インタビューの記事などを市内外の人に幅広く届けるため、市内施設や店舗等に掲示するなど効果的な方法を検討し、地域全体を巻き込んだPRIに取り組んでいきたい。

・頂いたご意見について、(一社)銚田市観光物産協会と共有し、より効果的な観光施策について模索していきたい。

・茨城DCの取り組みについては、ご紹介した「半カットメロンデコレーション」「溜沼でのリフレッシュヨガ&ランチ」「さんて旬菜館の野菜収穫体験」を実施予定。

・市の主要農産物や著名人を活用したプロモーションについては、メディアへの露出実績を中心に一定の評価をいただき、今後は農産物に限らない市のあらゆる魅力を発信していく発展的な取組として進めていく。また、市内農産物の海外に向けた認知度向上施策により、銚田市産農産物の販路拡大を図るとともに、儲かる農業実現に向けた担い手確保・スマート農業の推進に取り組むことで、市の基幹産業である農業の維持発展に注力していきたい。